

Rotary

例会報告

高山西ロータリークラブ



春の気配

蜘蛛 康介

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行 高山支店 4F
- 会長 古橋 直彦
- 幹事 遠藤 隆浩
- 会報委員長 塚本 直人

<会長の時間>

前回お話しした曾我徳丸が洪草を去ってからの続きです。

それまで一人で苦しい経営を続けてきた三輪源次郎でしたが、明治 30 年芳国社を株式会社にする申請の許可が下りました。しかし、申請が下りてから 13 年後の明治 43 年、三輪源次郎が没しました。

明治 11 年から 30 年余り。その間、私財をことごとく注ぎこみ残ったものは借財のみでした。営業は依然として振るわず 30 年の歴史も空しく解散することとなります。そのとき飛騨銀行に千円余りの借金があったそうですが株主であり、飛騨銀行の頭取でもあった土川宗左衛門が私費を投じて借金を片づけ、代わりに芳国社の土地、建物をもらい 30 年間使用した芳国社(会社の社)を以後芳国舎(学校の校舎の舎)としました。芳国社創業当時、徳丸と共に東京から来て人質として置いて行かれた小野華処は高山の二之町の店に入って卸と小売りと絵付けをし、洪草の工場は松山吉之助、小野三郎、北村直蔵の三人が工場を三分して各自の作品を作り、これを二之町の店に送り、上絵を付けるものはここで上絵を付けました。こうしたシステムも小野華処の店からの支払いが遅れがちになって維持できなくなり、窯場の各人は各々勝手に瀬戸物を売るようになり、その後、瀬戸物商組合が各瀬戸物商で買った代金を払うという時代が大正の終わりから昭和の初めまで続きました。

昭和 3 年、小野華処が没しました。芳国社で 50 年、18 歳で師である曾我徳丸に連れられて来てから全く他の事に手を出さず、芳国社の絵付けのみに終始した一生でした。ここにおいて二之町の店は松山吉之助の長男吉一(よしかず)が入ることになり、松山吉一による芳国舎の経営が始まります。洪草の工場にいた小野三郎は昭和元年芳国舎と別れて洪草の下の川上街道ぞいに窯を作りますが 5 年にして止めます。また、もう一人の北村直蔵も昭和 7 年に山田に西窯を作ります。最後まで芳国社のロクロをひいた松山吉之助が昭和 7 年没します。

こうして店も工場も松山吉一ひとりの経営となりここに初めて一貫した製品を生み出すことができるようになりました。瀬戸の系統の生地に九谷の影響をうけて飛騨九谷、飛騨赤絵と呼んだ時代から、有田の手法を入れて染付を主に伊万里風の色絵を作った時代、その間を縫って、白磁、南京写し、青磁と、あらゆるものを作ってきた洪草焼はこうした下地を基として、ついに洪草調という独自の文様と風合いの磁器を生み出しました。有田風でもなく九谷風でもない。青白い地に染付、赤絵、青磁、白磁などを独自の磁器を上岡本町で製作されています。

洪草焼を再興した松山吉一氏は、昭和 18 年文部省から洪草焼技術保存資格者に指定され、昭和 19 年荒川豊蔵、加藤幸兵衛ら 5 人で「五風会」を結成しました。昭和 51 年没。またその子の松山文

雄氏(通称は哲男)は多治見工業高校窯業科を卒業、高校時代は荒川豊蔵宅に寄宿して指導を受け、昭和 22 年から家業の芳国舎に従事し、平成 10 年没。

また、大正 15 年から昭和 56 年まで芳国舎洪草製陶所に勤務した絵師に吉川菊右衛門、一般には菊呂さんで通っていますが、吉川菊呂さんがみえます。洪草の絵師であり、画家でもあります。日本画、洋画、版画を学んで陶器に表現。また、昭和 19 年~20 年、高山に疎開した東京美術学校工芸技術講習所の生徒に実技指導もされました。洪草コレクターには、菊呂さんの作品も大変人気があります。

<幹事報告>

◎R I 日本事務局より

- ・5月のロータリーレートについて
1ドル110円(現行116円)

◎久居ロータリークラブより

- ・第39回インターアクト年次大会 開催のご案内
日時 8月7日(日) 9:30点鐘 16:30閉会
会場 津市センターパレスホール5階

◎はぐるま会会長より

- ・第183回はぐるま会開催のご案内
日時 6月12日(日) 12:36スタート
場所 飛騨高山カントリークラブ
表彰式 洲さき 18:30~ 会費 8,000円
締切 5月27日(金)

<例会変更>

- 高山中央 … 6月27日(月)は、最終慰労例会のため
18:30~ ひだホテルプラザ に変更

<受贈誌>

- 可茂RC(創立30周年記念誌、会報) R I 日本事務局(財団室NEWS2016年5月号)、台北市松年福祉會(玉蘭荘だより150号)、一般財団法人比国育英会バギオ基金(バギオだより第54号)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	休会	のため	補正	ありま	せん
本日	33名	-	33名	43名	76.74%

世界へのプレゼントになろう

例会報告

＜本日のプログラム＞ お祝い

◎会員誕生日

山本 善一郎 (当日欠席)
5. 15

塚本 直人
5. 7



◎夫人誕生日 (当日、ご自宅へ花束をお届け)

塚本 直人 智子 さん 5. 13
山下 直哉 理恵 さん 5. 26

◎結婚記念日



斎藤 章 井辺 一章 堺 和信 新井 典仁
S56. 5. 25 S52. 5. 12 S61. 5. 18 H14. 5. 25
(当日欠席) 折茂 謙一 S38. 5. 6、新田 敬義 S44. 5. 4

◎出席表彰

伊藤 松寿 (当日欠席)
31年
米澤 久二
16年



◎在籍周年記念表彰

なし

◎3ヶ月表彰

・伊藤 松寿 ・井辺 一章 ・杉山 和宏 ・住田 泰典
・田中 武 ・米澤 久二

新会員挨拶

(株) 高山グリーンホテル
常務取締役 松川 英明

筆頭推薦者: 狹土 貞吉



クラブ奉仕委員会

委員長 門前 庄次郎

本日は「クラブ奉仕委員会」の担当例会でございます。宜しく申し上げます。

クラブ奉仕と言うのは、

「クラブ機能を充実させるためにクラブ内で会員が取るべき行動に関わるもの」と定款にうたって有ります。クラブの活動が充実するためには、会務委員会の活動をしっかりやる事が大切である、と言う事だと思います。そんなことを思い本日は当委員会の小委員会委員長さんにご覧している事をお話頂きたいと思っております。今年度は比較的新しい方、若い方が委員長になって見えますので、初めて委員長になって、まだ少しありますが、今年度を振り返って感じたこと、今後こんな風にすればと言うような提案をして頂ければ幸いです。

最初に ニコニコ委員会 田中晶洋さん 二番目に 雑誌・広報委員長の山下直哉さん 最後に出席・プログラムの新井典仁さんの順番でお願いします。



ニコニコ委員長 田中 晶洋

ニコニコBOXの意義について集めた情報を基にお話したいと思います。

ニコニコBOXは、ロータリー会員の喜び事、祝い事あるいは、ちょっとしたしくじり

など、身の回りの出来事や近況披露、お礼や感情表現など様々な理由を付けて、会員が自発的に参加するもので、別に何の規定もあるわけではありません。要するに、ニコニコBOXの名が示す通り、拠金する会員もニコニコしながら拠出し、集まったお金は、クラブの奉仕活動などに使用します。金額については、善意のお金ですからいくらでも良いのですが、喜びの大きいときは相当多額のニコニコもあります。多くの会員からいろいろの理由で何回も拠金してもらうのが、ニコニコBOX本来の姿といえるでしょう。

ただし、ニコニコBOXというのは世界的な慣例ではありません。世界中どこにもあるというものではありません。アメリカを始め諸外国にはニコニコBOXに類するものとしてFine BOXとChest BOXがあります。ロータリーが創設されて間もなくの明治38年(1905)第3回例会の時に、欠席、早退者は50セントの罰金を科す規定が採用され、それを自主的に投入する罰金箱(Fine BOX)が設けられました。Chest BOXは目的を定めた募金箱ですから、目的を定めずに募金をする日本のニコニコBOXとは趣旨が異なります。奉仕活動をするための資金集めは、会員の了解を得た上で目的を定めて、その目的のために帽子を回すのが諸外国のやり方ようです。

世界へのプレゼントになろう

例会報告

日本で、ニコニコBOXの慣例ができたのは、2つの説がありました。1つには昭和10年(1935)関東大震災の被災孤児たちを東京ロータリークラブの人たちが東京ロータリーホームという孤児院で世話をしていたが、その子供たちを当時オープンした多摩川園という遊園地に連れていくための資金を集めるために、会員であった羅紗間屋上村伝助商店の筆頭番頭であった関幸重という人が一計を案じ、ありあわせの段ボール箱を持って、面白おかしく話をしながら例会場を回ってお金を集めたのが最初という説、もう一つは昭和11年(1936)大阪RCが仏頂面で罰金を出すような名称は好ましくないで、ニコニコ箱と呼ぶように提案し、以後我が国ではニコニコ箱やスマイリングボックスと呼ばれ、投入する名目もニコニコに値する会員の慶事を他の会員にも共に喜んで貰うという趣旨に変遷したとされています。

いずれにしてもニコニコBOXとは日本の仏教の布施の精神が基となっているような気がします。仏教の布施と言うことについてお釈迦様のエピソードを紹介したいと思います。あるとき、お釈迦さまが弟子を連れて托鉢に歩かれていました。托鉢とは物乞いではなく、人々に布施の功德を積ませる修行です。ある村の入り口に差し掛かった時に弟子の一人が「この先の村は貧しいものしか住んでいない村です。托鉢に廻っても何も出すものが無いと思われます。違う村へ行きましょう。」とお釈迦さまに進言すると「現世で貧しきものは過去世において布施をしてこなかったからなのだ。今世において布施をしなかったらまた来世苦しまねばならない。だから布施を勧めるのだ。」と言って貧しい村に托鉢に行かれたといひます。また、長者の万灯より貧者の一灯ともいわれ、大金持ちが沢山布施をするもの尊いとお金を持たない者が無い中から頑張った出したお金の方がもっと尊いとも言われます。

そしてニコニコBOX会計は、会員が受益者とならない社会奉仕、国際奉仕委員会及び特定分野の委員会費用であり、主として団体奉仕活動の資金として支出されるものです。私たちロータリアンが率先して布施の精神を発揮すべきところがニコニコBOXであるといえます。



雑誌・広報委員長

山下 直哉

雑誌・広報委員長の山下直哉です。副委員長に田中正躬さん、委員に小森丈一で一年間活動いたしました。田中さんにはゲストス

ピーチ等の相談にのっていただき、小森さんにはロータリー俳壇に何度も投稿していただき助かりました。

基本方針は毎月例会時に「ロータリーの友」の記事を紹介し、ロータリアンの意識高揚に努める。ロータリークラブの理念、奉仕活動について、地域社会に理解と共感を得られるように広報する。として活動しました。残念ながらクラブ活動を「ロータリーの友」へ

投稿することはできませんでした。

担当例会は2月19日に(有)プレス 代表取締役の細井卓美様に卓話をいただきました。高山市内3ロータリークラブ共同で高山市民時報に記事を投稿させていただきました。

出席・プログラム委員長

新井 典仁

皆さん、こんにちは。平成27年度、出席プログラム委員長を務めさせていただきました新井です。



出席プログラム委員会の1

年を通じて感じた事等を述べさせていただきます。

27年度の基本方針としましては、「各委員会との連携を密にしてスムーズなプログラムの開催をサポートする。および出席率の向上を目指す」という目的でした。まず、委員会計画といたしまして「出席率向上のための意識の高揚を図る」というものがありましたけども、それは意識を高めるために何か行うことが出来たかと言いますと残念ながら特に何もすることが出来なかったように思います。しかし「出席率の向上」というのはロータリークラブである以上、とても重要な課題かと思っておりますので、単に出席しようとするだけでは何も前に進まないように思いますので、皆さんで話し合い何かしらのアクションを起こさなければならぬのかなと個人的に思いました。

毎回の出席状況の報告と喜捨ファインの徴収ですが、副委員長の住田さんにも協力して頂きながら一年間漏れなく報告や徴収が出来たと思います。プログラムのスムーズな進行の為の各委員長との連携につきましては、私自身積極性に欠け充分なサポートが出来なかったように思います。

私自身の委員長としての一年間の総括としましては、委員会の趣旨に対して理解が浅い事もあり活動に対して消極的で受け身であったと思いますので、もっと積極的に能動的に取り組みれば良かったと思いました。

今更なのですが、そもそも出席プログラム委員会というのは何だろうと調べてみたのですが、他のロータリークラブではほとんどが「出席委員会」というのと「プログラム委員会」に分かれていました。出席委員会は出席率の向上を目的にしておりますし、出席率が低下している会員さんに対しては出席勧奨と言いまして出席を促すような事もしておられるようです。プログラム委員会はプログラムの準備や手配や各委員長との連携など縁の下のような存在の委員会でその他サポート範囲は多岐に渡っています。

深読みかもしれませんが、高山西ロータリークラブにおける「出席プログラム委員会」が、本来、出席委員会とプログラム委員会の二つの委員会があえて統一されているものであるとするならば、それは何らかのメリットを効率性を求めてそれらが融合して一つの委員会になっているのではないのでしょうか？もしそうなら、普

世界へのプレゼントになろう

例会報告

段からロータリーの活動全体をよく注視して、まずは委員会としての趣旨をもっと深い所でよく理解しなければ、目的を有意義に成し遂げる事は難しいのではないかと思います。ですので、今後は諸先輩方に対してよく教を乞う姿勢で積極的にアプローチしていきたいと思ひます、どうぞ宜しくお願い致します。

ご清聴いただき有難うございました。



<ニコニコボックス>

●古橋 直彦さん、遠藤 隆浩さん

グリーンホテル松川さんの入会を歓迎いたします。よろしくお願ひします。

●松川 英明さん

本日より入会させて頂きます。今後ともよろしくお願ひ致します。

●田近 毅さん、内田 幸洋さん、斎藤 章さん、垣内 秀文さん、向井 公規さん、大村 貴之さん

松川 英明さんのご入会を心より歓迎いたします。

●米澤 久二さん

お隣の会社へお勤めの松川さんの入会を歓迎します。よろしくお願ひします。

●挾土 貞吉さん

- ・(株) 高山グリーンホテル常務取締役 松川 英明さんの入会お待ちしております。心より歓迎いたします。
- ・日頃行いが悪く何時保護されるかもしれない男に、昨日岐阜県知事さんからの呼び出しがありびっくりしましたので。
- ・内田さん、惣司四朗の件ありがとうございました。

●門前 庄次郎さん

本日はクラブ奉仕委員会の担当例会です。卓話をニコニコ委員長 田中 晶洋さん、雑誌広報委員長 山下 直哉さん、出席・プログラム委員長 新井 典仁さんをお願いしております。宜しくお願いします。

●井辺 一章さん

一ヶ月ぶりに出て参りました。目の病気で名古屋で手術をし、一度失敗して二度目で成功。痛い思いをしました。

●米澤 久二さん

昨日、四日市文化会館で行われた「規程審議会報告会」へ鴻野さんと一緒に行つて参りました。内容については後日機会があれば報告いたしますが、自由化への流れが強いR Iの方針に少し違和感を持って帰りました。鴻野さんには道中お世話になりありがとうございます。

●榎坂 純一さん

GWは朝市通りに沢山の観光客がいらつしやり大賑わいでした。今後宮川沿いの通りの課題は午後からいかに観光客を取り込むかという事になりそうです。まずは町並みを整備し、綺麗で趣がある通りにしたいと思ひます。随時進捗をご報告いたします。

●鍋島 勝雄さん

先月 29、30 日のからくり競演。残念ながら初日雨にて中止でしたが、2 日目好天気に恵まれ無事終了いたしました。安川通りを渡り春祭りの地域に入った時、涙が止まりませんでした。また日枝神社氏子の大歓迎に戸惑いながら、進行でき感激しつつからくりを終了出来ました。

●塚本 直人さん

さわやかな季節です。本日家内の所に誕生日の花束がクラブより届きました。ありがとうございます。素敵なバースデイとなりました。

●折茂 謙一さん

ジャカルタからの旅行者が発熱・筋肉痛・腹痛吐き気有り、ジャカルタでデング熱流行中との事です。検査の結果を待っていますので早退します。

●田中 晶洋さん、田邊 淳さん、黒木 正人さん、杉山 和宏さん

斐太高校出身のお笑いコンビ「流れ星」が岐阜県から飛騨・美濃観光大使に選ばれました。飛騨をこれからもっと全国にPRしてくれる若き 2 人にエールを送りたいと思ひます。



世界へのプレゼントになろう